

DBXL XTP

📅 5/25/2023

目的

このドキュメントでは、**DBXL XTP**の主な使用方法を説明し、使用方法の簡略化した手順を提供します。

概要

DBXL XTPは、新しいフォームテンプレートや既存のフォームテンプレートから**DBXL**への送信を簡略化するための機能を提供します。また、送信された**DBXL**ドキュメントをフォームにロードするための機能も提供します。このために、**FormsViewer**で推奨される**DBXL**の**GetDocument**メソッドと**SubmitDocument**メソッドの**UserKey**バージョンを使用します。

また、非**UserKey**バージョンの**QueryDB**接続を**UserKey**バージョンの**QueryDB**サービスを使用するように変換するための簡単な方法も提供します。

セットアップ

InfoPathフォームにテンプレートパートを追加する手順については、**XTP**と一緒に含まれている「**How to Add a Template Part in InfoPath Form**」ドキュメントに従ってください。それから、**XTP**を**InfoPath**デザイナーに追加し、フォームに追加してください。

XTPには詳細なセットアップ手順が含まれており、**XTP**をフォームに追加すると、フォームのビューにこれらの手順が追加されます。

これらの手順の概要は次のとおりです：

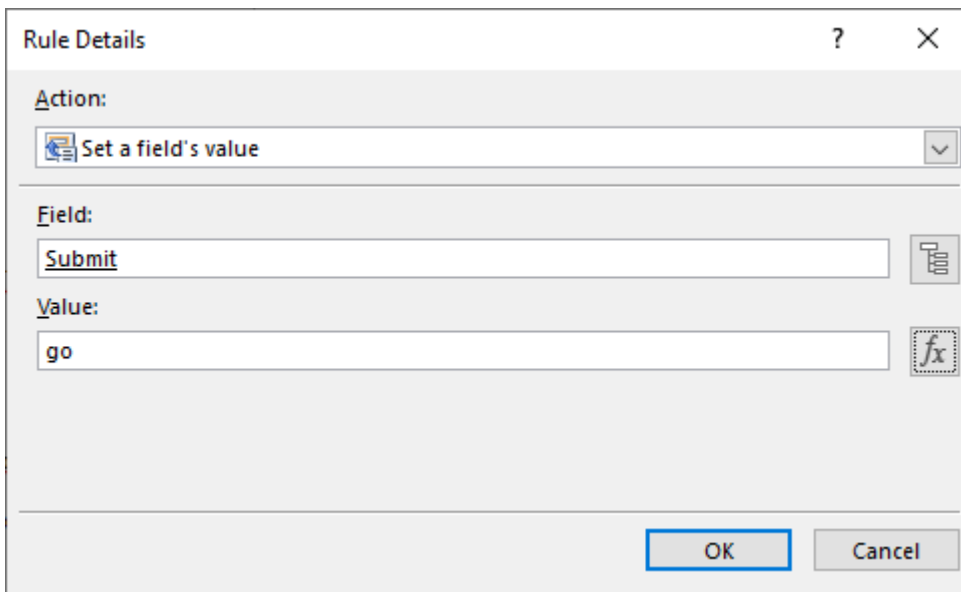
1. 環境変数のセットアップ
 - a. **XTP**は、**FormsViewer**の**Environment Variable** (環境変数) 機能を利用しています。これにより、必要な**DBXL**の設定値を**FormsViewer**の「**Manage Environment Variables**」ページで指定できるため、フォーム内にこれらの値をハードコードする必要はありません。これにより、セットアップ時間を節約し、これらの値を迅速かつ簡単に変更できるようになります。
 - b. したがって、このセットアップ手順は、フォームごとに一度ではなく、一度だけ実行する必要があります。
2. ルールロジックのセットアップ

- a. XTPの機能を動作させるためには、多少のルールロジックが必要です。必要な手順はXTP内で詳細に説明されています。

3. 完了したら、XTPの手順を削除してください。

Submitting to DBXL

The XTP includes functionality for submitting documents to DBXL. You can initiate this from any rule in the form by adding an action to set the `/XtpLogic/Actions/Submit` field in the `XtpLogic_Dbxl` data source to the value “go”:



The screenshot shows a 'Rule Details' dialog box with the following fields:

- Action:** A dropdown menu with 'Set a field's value' selected.
- Field:** A text input field containing 'Submit'.
- Value:** A text input field containing 'go'.

At the bottom of the dialog are 'OK' and 'Cancel' buttons.

The **Set Values for DBXL Submit** rule on this **Submit** field contains actions for setting the DocType, Name, Author, and Description fields.

When setting up the XTP, you should modify the first of these actions to set the DocType field to the name of the DBXL doctype that your form should submit to.

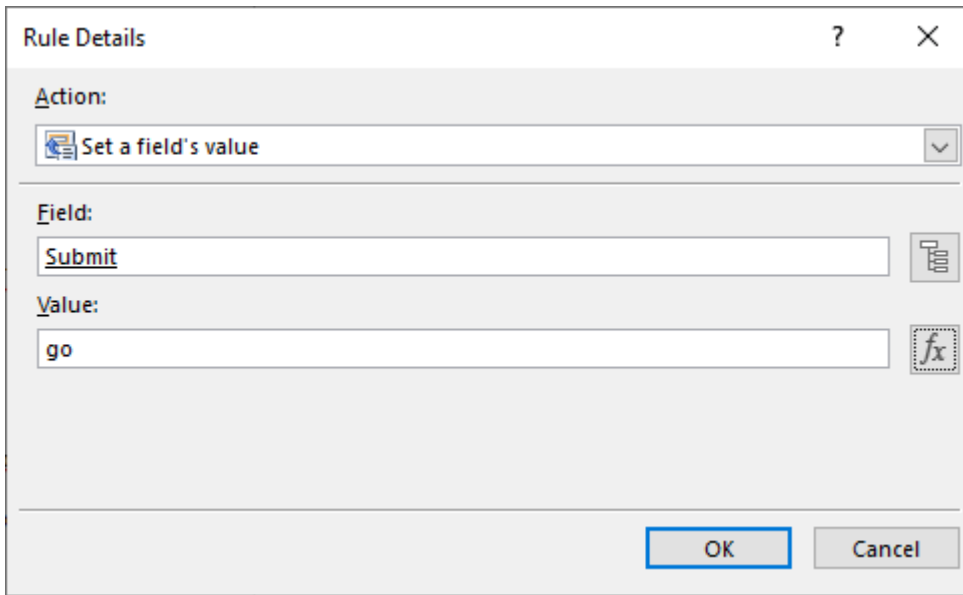
You can also optionally use static values or formulas to set the Name, Author, and Description fields using values in the form's data sources. These values will be stored as the submitted document's metadata in DBXL.

If your form already has functionality to submit to DBXL using the non-UserKey SubmitDocument method, you can modify your submit logic to use this **Submit** field instead.

DBXLへの送信

XTPには、ドキュメントをDBXLに送信する機能が含まれています。フォーム内のどこかのルールからこれを実行するには、ルールアクションを追加して、`XtpLogic_DbxlXtp`データソースの`/XtpLogic/Actions/Submit`フィールド

ールドの値を「go」と設定します:



このSubmitフィールドの「Set Values for DBXL Submit」ルールには、DocType、Name、Author、およびDescriptionフィールドの設定用のアクションが含まれています。

XTPをセットアップする際には、この中の最初のアクションを変更して、DocTypeフィールドをフォームが送信するDBXLドキュメントタイプの名前に設定する必要があります。

フォームのデータソースの値を使用して、Name、Author、およびDescriptionフィールドを設定するために、静的な値または数式を使用することもできます。これらの値は、送信されたドキュメントのメタデータとしてDBXLに保存されます。

また、フォームが非UserKeyのSubmitDocumentメソッドを使用してDBXLに送信する機能を既に持っている場合は、このSubmitフィールドを使用するように送信ロジックを変更できます。

DBXLからドキュメントを開く

XTPには、送信されたドキュメントをDBXLからロードする機能が含まれています。

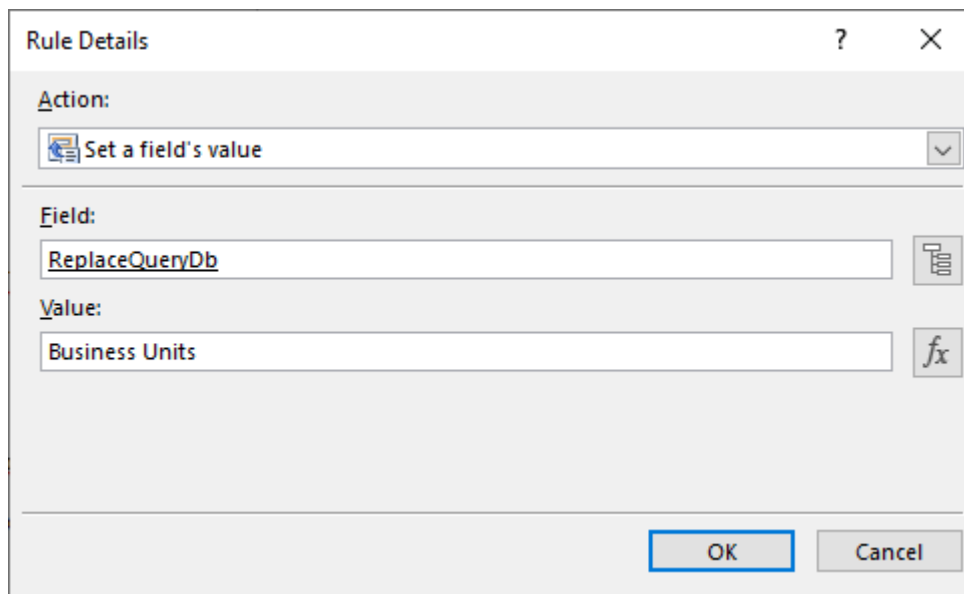
FormsViewerからフォームを開く際に、URLにdocid=パラメータを含め、開くドキュメントのドキュメントIDを指定することで、この機能を利用できます。

例：
<https://qfs.formsquo.com/FormsViewer/View?SPAppWebUrl=...&templateName=MyTemplate&docid=12345>

非UserKeyのQueryDB接続の使用

このドキュメントで前述したように、FormsViewerからDBXLをクエリする場合は、DBXLのウェブメソッドのUserKeyバージョンを使用することを推奨しますが、既に非UserKey QueryDB接続を持つフォームを移行する場合は、このXTPを使用してUserKeyバージョンのQueryDBを実行できます。

これを行うには、フォームロジック内のQueryDB接続を実行する箇所を見つけ、それぞれの「データ接続を使用してクエリを実行」ルールアクションを、「フィールドの値を設定する」ルールアクションに置き換えて、XtpLogic_DbxlXtpデータソースの/XtpLogic/Actions/ReplaceQueryDbフィールドを、クエリするデータ接続の名前に設定します：



The screenshot shows a 'Rule Details' dialog box with the following configuration:

- Action:** Set a field's value
- Field:** ReplaceQueryDb
- Value:** Business Units

The dialog box has 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom right.

このフィールドを該当するデータ接続の名前に設定すると、XTPロジックがクエリを実行し、指定されたデータソースにクエリ結果が格納されます。